

●クラーク記念館のライトアップ

6月から今出川キャンパスで、昨年の明德館に続き、クラーク記念館のライトアップが始まった。建物西南側の塔屋を中心に鐘楼、ポール先端までを三方から照らすので、霧の中でも光がよく通るハイカライトを使用。ややオレンジ色の光が赤レンガの建物に美しく映えている。フレンドピースハウス（旧ハワイ寮の旧館）でも同様にライトアップが始まり、明治建築の白壁と緑色のペランダが栗ノ木通りの闇に幻想的に浮かび上がっている。



富森徹児氏（政治評論家）による記念特別講演会（東京山手教会礼拝堂）



オープニングセレモニー



ホール

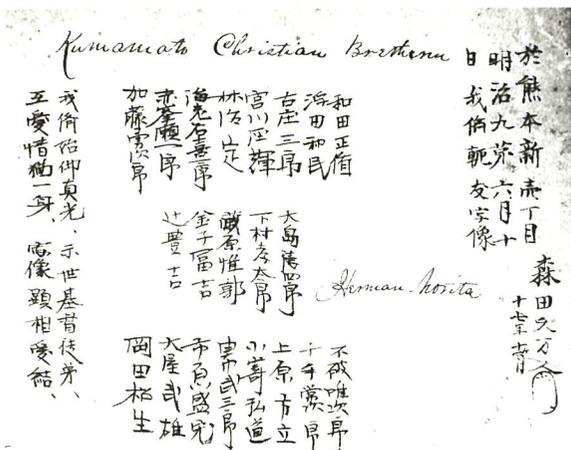
● 「同志社大学東京アカデミー」開設

東京における同志社の新たな活動の拠点として、渋谷の東京山手教会1階の一部を借用、「同志社大学東京アカデミー」と命名し、開設した。同アカデミーには、従来銀座にあった学校法人同志社東京分室を移転するとともに、およそ180㎡のホールおよび定員20人の会議室を備えている。7月8日にはこの開設を記念して、特別講演会とオープニングセレモニーを開催。松山義則総長、野本真也理事長、八田英二大学長も出席して盛会裏に終わった。

●熊本バンド集合写真（森田久萬人旧蔵）



森田久萬人は後列左から3人目。赤峰瀬一郎と海老名喜三郎の間。



(写真裏面)

写真の裏書きには「於熊本新赤丁目、明治九[年]六月十日、我侪輒友写真 森田久萬人 十七年十一月月」「(読み下し)我侪始めて真光を仰ぎ、世に基督徒弟を示す、互いに愛惜し、なお一身の如し、写像は相愛の結びを顕す」とある。また、“Kumamoto Christian Brethren”として自分のクリスチャン・ネーム“Herman Morita”を書き、前・中・後列に分けて全員の名前を明記している。なお、小崎本で名前が不祥となっていたのは千手常次郎、大屋武雄、大島徳四郎、金子富吉の4人。写真に見られる黒足袋に高下駄の足元は、当時の肥後の青年の気風を思わせる。

(『熊本バンド研究』への思い) 54頁に関連記事)